

平成21年4月15日(水)  
「犯罪からの子どもの安全」領域

第2回「犯罪からの子どもの安全」シンポジウム  
被害実態をつかむ ― 子どもたちの叫びが聞こえますか ―  
まとめ(暫定版)

1. 開催趣旨

領域のネットワーク活動の一環として、領域の活動に留まらず、「犯罪からの子どもの安全」の問題について広く情報発信・交換する場として、「犯罪からの子どもの安全」シンポジウムを開催する。

本領域の設立当初からの問題意識として、根拠に基づく犯罪対策が重要であるものの、そのベースとなる犯罪被害の実態把握に向けた取り組みが日本では緒についたばかりであり、中でも子どもの被害実態の把握については難しいという点がある。一方、現状では、目の前の子どもを守るための取り組みが試行錯誤的に行われており、有効性や継続性などの観点から懸念の声もあがっている。

そこで、第2回となる今回のシンポジウムでは、犯罪からの子どもの安全を考える上で基礎となる、子どもの犯罪被害の実態を捉えることをテーマにした。問題の大切さ、難しさ、そして今後進むべき方向について、4人の研究開発プロジェクト代表者による講演とディスカッションを行い、警察、医療、司法、情報空間など、異なる視点・角度から一つのテーマについて考える。

また、これまでに採択した8つの研究開発プロジェクトによるポスター発表を行い、来場者と直接対話する場を設定した。平成21年度の研究開発公募に関する問い合わせ窓口も設置し、シンポジウムの最後には、公募においてどのようなテーマを領域として期待したいか、メッセージを発信する。

2. 日時

平成21年3月10日(火) 10:00～17:30

3. 場所

東京大学生産技術研究所コンベンションホール

4. 参加者

計151名 (登壇者、領域アドバイザー、ポスター発表者を含めた場合:200名)

## 5. プログラム

10:00～10:15 インTRODクシヨN

◇ 開会挨拶

片山 恒雄 領域総括 / 東京電機大学未来科学部 教授

◇ 領域の紹介

安藤 二香 社会技術研究開発センター アソシエイトフェロー

10:15～11:45 講演

◇ 子どもの被害・ヒヤリハット — 危険を測る「ものさし」をつくる —

原田 豊 科学警察研究所犯罪行動科学部 部長

◇ 子どもの傷痕から犯罪を見抜く — 医学と工学からのアプローチ —

山中 龍宏 (独)産業技術総合研究所 CIPEC 代表 / 緑園こどもクリニック 院長

11:45～14:00 来場者との対話・昼食休憩

◇ ポスターセッション : 8 研究開発プロジェクト

◇ 平成21年度公募相談 : 社会技術研究開発センター

14:00～15:30 講演

◇ 子どもたちの証言 — 事実を聴き出す面接法 —

仲 真紀子 北海道大学大学院文学研究科 教授

◇ 危ないネット遊びの実態 — ネットいじめの特徴と対策のあり方 —

下田 博次 NPO 法人青少年メディア研究協会 理事長

15:30～15:50 コーヒーブレイク

15:50～17:10 パネルディスカッション

◇ 具体的解決策に向けて — 現状を知ることから始めよう —

コーディネーター: 新谷 珠恵 (社)東京都小学校 PTA 協議会 会長

パネリスト: 下田 博次

仲 真紀子

原田 豊

山中 龍宏

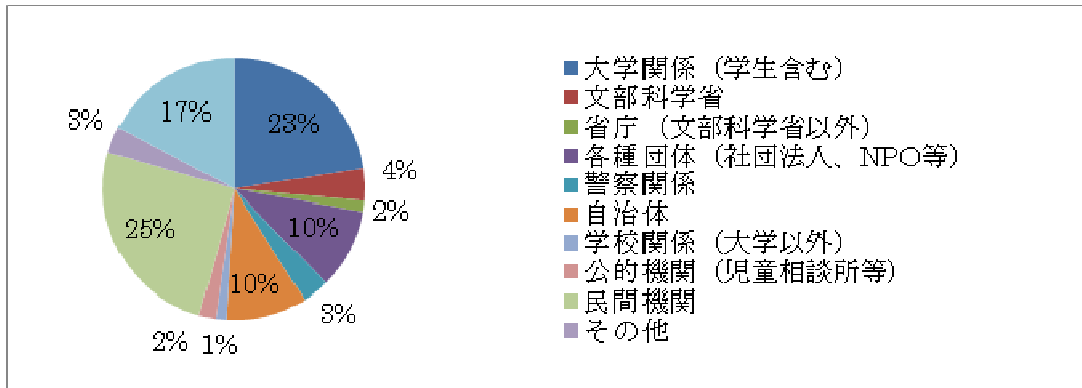
17:10～17:30

◇ 次年度公募に向けたメッセージ・閉会挨拶

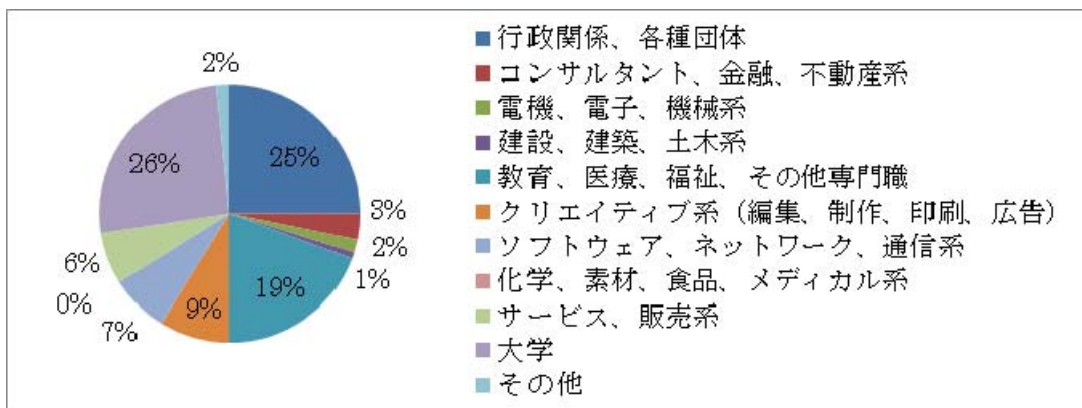
## 6. 集計結果

### 6-1. 参加者（151名）

#### ● 所属機関別内訳

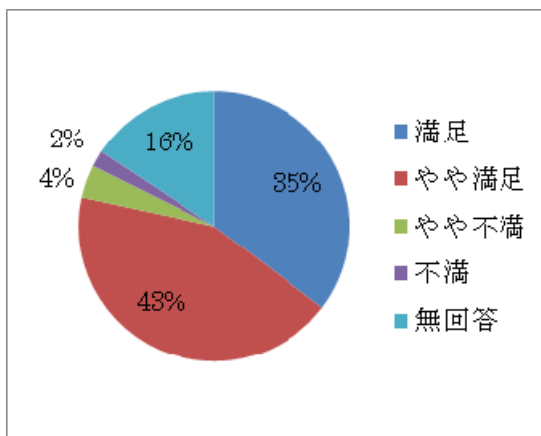


#### ● 業種別内訳

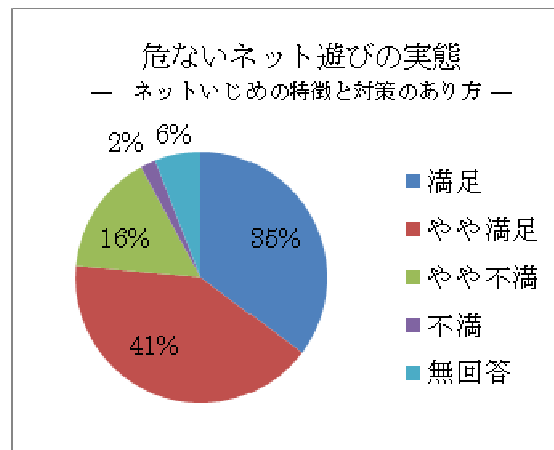
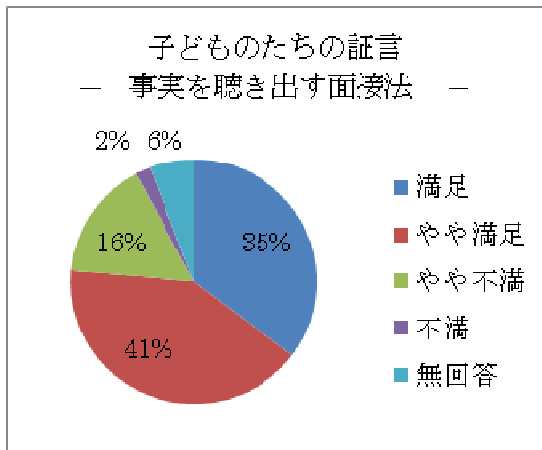
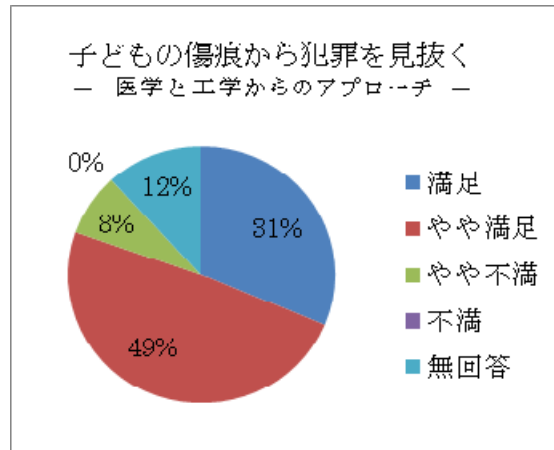
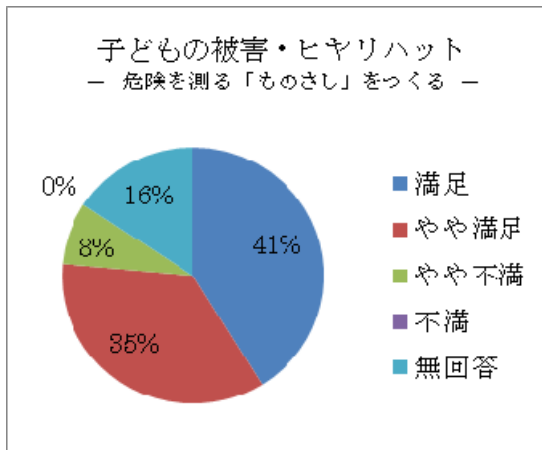


### 6-2. アンケート集計結果

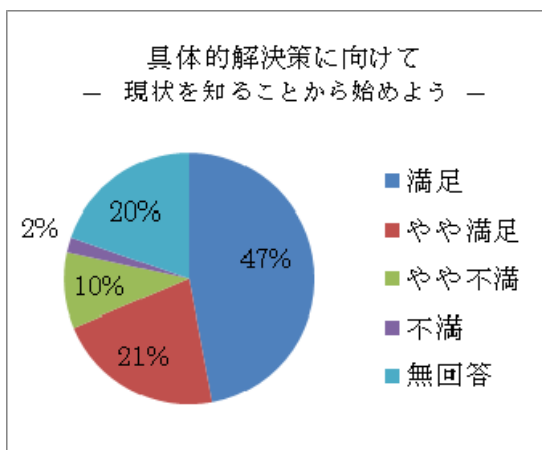
#### ● シンポジウム全体について（回答数：51）



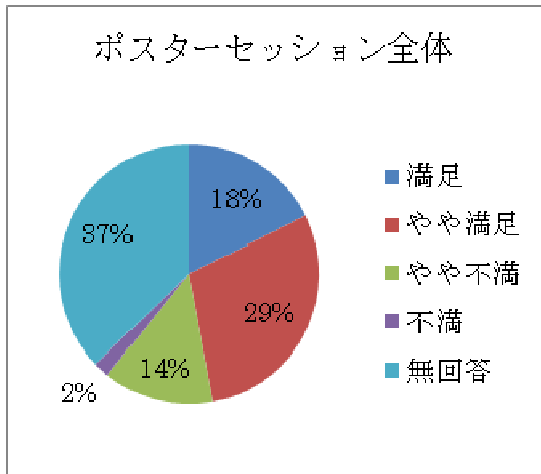
● 講演について（回答数：51）



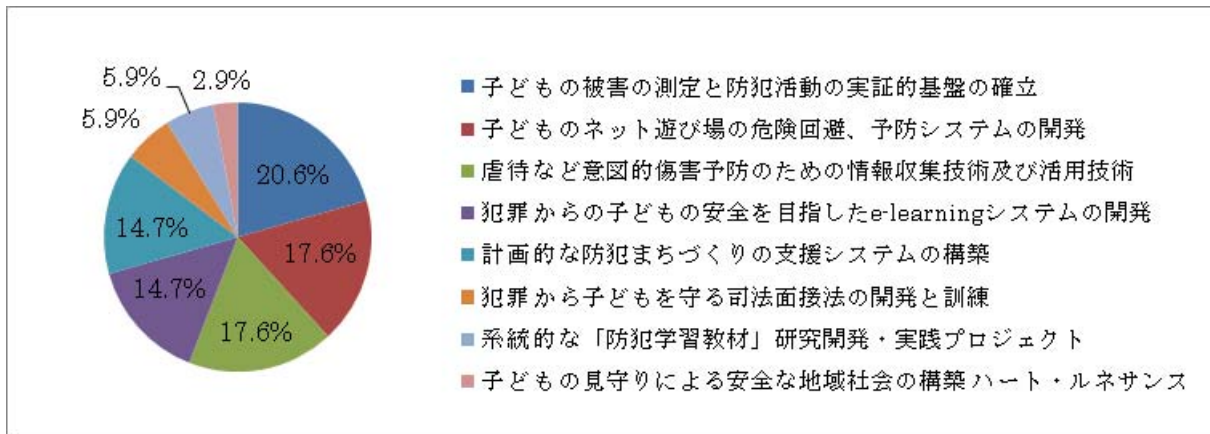
● パネルディスカッションについて（回答数：51）



● ポスターセッションについて（回答数：51）



● 良かったと思うポスター（3つ選択、回答数：34）



● シンポジウムの開催をどのように知ったか（複数選択可、回答数：52）

